

第6章 浸水対策の実現に向けて

6-1 行動計画の策定

基本計画に示した内容を着実に推進するため、浸水対策を強化する施策として、河川や下水道の整備はもとより、流域全体での取り組みなどの具体的な施策を示した、短期（おおむね5年間）、中期（おおむね10年間）の行動計画を策定し、関係部署全体で共有し、実行力の向上を図ります。

6-2 推進体制の強化

基本計画に示す内容を着実に推進するための体制を強化します。

- 岡山市浸水対策推進協議会

「岡山市浸水対策の推進に関する条例」第20条に基づき設置された協議会において有識者や関係団体から、広く意見を伺いながら条例及び浸水対策を推進します。

- 岡山市浸水対策推進連絡会議

市内部の関係部局により設置された連絡会議において進捗状況などを確認・点検し、取り組みを推進します。

6-3 市民への広報・周知の徹底

岡山市は「晴れの国」岡山と言われていることもあり、浸水常襲区域以外の地域では浸水対策への関心度が薄れていますが、基本計画では市民も重要な役割を担うこととなります。

このため、従来の広報紙やホームページでの広報活動に加え、市民や事業者が行う「自助」「共助」を促進するため様々な機会を捉えPR活動を強化します。

6-4 継続的なモニタリングの実施

河川や下水道の整備計画や基本計画は、原則として岡山地方気象台が発表するデータに基づき検討されています。しかし、近年は局所的な集中豪雨が増加する傾向にあることから、例えば下水処理場やポンプ場に設置された雨量計のデータ等も活用するなど、きめ細かにデータを収集・分析しながら、基本計画の見直しや具体の対策に反映します。

また、国の技術的支援など、最新の情報や他都市の先進事例を注視するとともに、関係機関等からの情報収集を積極的に行います。

6-5 最新技術の反映と研究

降雨レーダを活用した自助・共助支援、シミュレーションの高度化等、浸水対策は日々進化しています。このため、国や民間企業の技術開発の動向や他都市の先進事例を注視するとともに、関係機関の研修等に積極的に参加し市職員の技術力の向上を図ります。

6-6 計画の見直し

- 短期、中期の行動計画について、適切な時期に確認や点検を行い、PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理によって実効性の確保を図ります。
- 具体的には、各項目の取り組み状況等について、毎年度評価を実施します。
- 計画の進行状況や見直しに当たっては、岡山市浸水対策推進協議会に諮り、広く意見を伺いながら、実施します。
- 基本計画の見直しにおいては、長期にわたる計画であるため、土地利用等の社会状況、異常豪雨の増加等の気象状況、市の財政状況、技術の進歩等の変化を的確にとらえ、より実効性のある計画とします。